

## 令和6年（2024年）の桜島の火山活動

福岡管区気象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方気象台

南岳山頂火口では、引き続き噴火活動がみられました。年間で噴火<sup>1)</sup>が99回発生し、このうち爆発<sup>2)</sup>は46回でした。また、同火口における火映は、夜間にほぼ連日観測されました。

昭和火口では、1月21日にごく小規模な噴火を観測しましたが、以降噴火は観測されていません。また、同火口における火映は観測されませんでした。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、概ね多い状態で経過しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では、一部の噴火に伴い、噴火前のわずかな山体の膨張（隆起）及び噴火後のわずかな山体の収縮（沈降）を時々観測しました。

GNSS連続観測では、桜島島内の基線で2024年1月頃から同年10月頃にかけて山体収縮に伴うとみられるわずかな縮みが認められました。また、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられています。始良カルデラの地下深部には、マグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられます。

- 1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが火口縁上1,000m以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火として噴火回数に含めていません。
- 2) 桜島では、火道内の爆発による地震を伴い、爆発音、体を感じる空気の振動、噴石の火口外への飛散、または、気象台や島内の観測点で一定基準以上の空気の振動のいずれかを観測した場合に爆発としています。

### ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし	火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）
------------	-----------------------

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_vact\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_vact_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

## ○2024年の活動概況

### ・噴煙など表面現象の状況（図1～4、図7、図9-①②③、図10-①②③⑨、図11-①②、表1～2）

南岳山頂火口では、引き続き噴火活動がみられました。噴火は99回発生し、前年（2023年：175回）と比較して減少しました。このうち爆発は46回と前年（2023年：85回）と比較して減少しました。また、5月から10月にかけては、空振の振幅が比較的大きな爆発が時々発生しました。噴煙の高さが火口縁上3,000m以上に達した噴火は8回発生し、前年（2023年：2回）と比較して噴煙量の多い噴火が増加しました。噴煙は最高で火口縁上5,000mまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で4合目（南岳山頂火口から約1,500m）まで達しました。また、同火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映をほぼ連日観測しました。

2月14日18時33分に発生した爆発では、噴煙が火口縁上5,000mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は南岳山頂火口から5合目（南岳山頂火口から約1,300m）まで達しました。この爆発をうけて、翌日（15日）桜島島内において実施した現地調査では、桜島武町から高免町の範囲で降灰が確認され、桜島西道町から桜島松浦町の一部及び桜島白浜町から高免町の一部では、道路の白線が降灰で覆われる程度の多量の降灰を確認しました。なお、小さな噴石は確認されませんでした。また、電話による聞き取り調査では、鹿児島県鹿児島市、始良市、霧島市、鹿屋市、曾於市及び宮崎県宮崎市、都城市でこの爆発に伴う降灰を確認しました。

昭和火口では、2023年2月8日以降噴火活動が時々みられており、2024年は1月21日16時00分のみごく小規模な噴火が発生しましたが、以降噴火は観測されず、活動は低調な状態で経過しました（2023年、噴火：40回、爆発：4回）。また、同火口では火映は観測されませんでした。

### ・地震や微動の発生状況（図9-⑥～⑧、図10-⑥～⑧、図11-④⑤、図12）

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性地震は年間で1,696回発生し、前年（2023年：1,900回）と比較してやや減少しました。このうち、桜島南西側を震源とする火山性地震は年間で68回発生し、前年（2023年：594回）と比較して減少しました。2023年12月から2024年2月にかけては、B型地震のわずかな増加がみられました。

震源は、主に南岳直下のごく浅いところから深さ3km付近、北岳付近の深さ0～1km付近、桜島南西側の深さ7～11km付近及び桜島東側の深さ5km付近に分布しました。

火山性微動は主に噴火に伴って時々発生しました。火山性微動の継続時間の年合計は11時間9分（2023年：472時間27分）で、前年と比較して減少しました。

### ・地殻変動の状況（図13～15）

桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では、一部の噴火に伴い、噴火前のわずかな山体の膨張（隆起）及び噴火後のわずかな山体の収縮（沈降）を時々観測しました。

GNSS連続観測では、桜島島内の基線で2024年1月頃から同年10月頃にかけて山体収縮に伴うとみられるわずかな縮みが認められました。また、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられています。始良カルデラの地下深部には、マグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられます。

### ・降灰の状況（図8、図9-④、図10-⑤、図11-③、表3）

鹿児島地方気象台では、年合計では51g/m<sup>2</sup>（降灰日数44日）の降灰<sup>3)</sup>を観測し、月別では8月が最も多く月合計30g/m<sup>2</sup>を観測しました。

鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した2024年の火山灰の総噴出量は、約28万トン（2023年：約55万トン）で、前年と比較して減少しました。

・火山ガスの状況（図9-⑤、図10-④）

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、700～4,800トンでした。火山ガスの放出量は引き続き、2022年7月以来概ね多い状態で経過しました。

・南岳山頂火口及び昭和火口の状況（図3、図5、図6）

繰り返し実施した桜島島内及びその周辺における赤外熱映像装置による観測では、昭和火口内壁の一部、昭和火口近傍、南岳南東山腹及び南岳南南東山腹で引き続き地熱域を確認しましたが、特段の変化は認められませんでした。夜間における観測では、肉眼でようやく認められる程度の南岳山頂火口の火映を時々観測しました。また、注意深くしていると聞こえる程度の鳴動を時々観測しました。

九州地方整備局及び航空自衛隊航空救難団春日ヘリコプター空輸隊の協力により実施した上空からの観測では、南岳山頂火口内及び火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。昭和火口内では、火口内北側の火孔から引き続き白色噴煙が上がっていることを確認しました。また、いずれの観測でも火口内に地熱域を確認しました。

- 3) 鹿児島地方气象台（東郡元：南岳の西南西約11km）において、前日09時～当日09時の1日間に降った1㎡あたりの降灰量の月合計です。

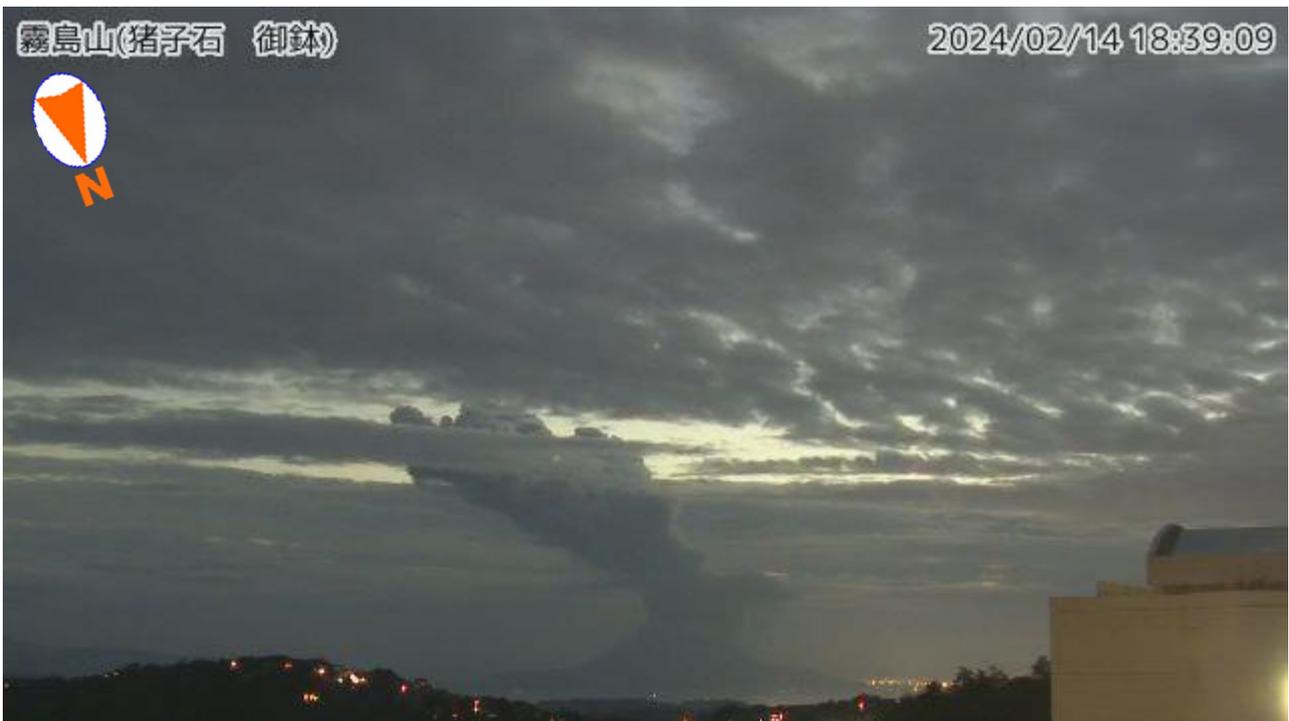


図1 桜島 2月14日18時33分に発生した南岳山頂火口の爆発の状況（猪子石監視カメラ）  
噴煙が火口縁上5,000mまで上がりました。



図2 桜島 8月6日00時37分に発生した南岳山頂火口の爆発の状況  
（海潟監視カメラ（大隅河川国道事務所設置））

弾道を描いて飛散する大きな噴石が4合目（南岳山頂火口から約1,500m）まで達しました（黄破線内）。

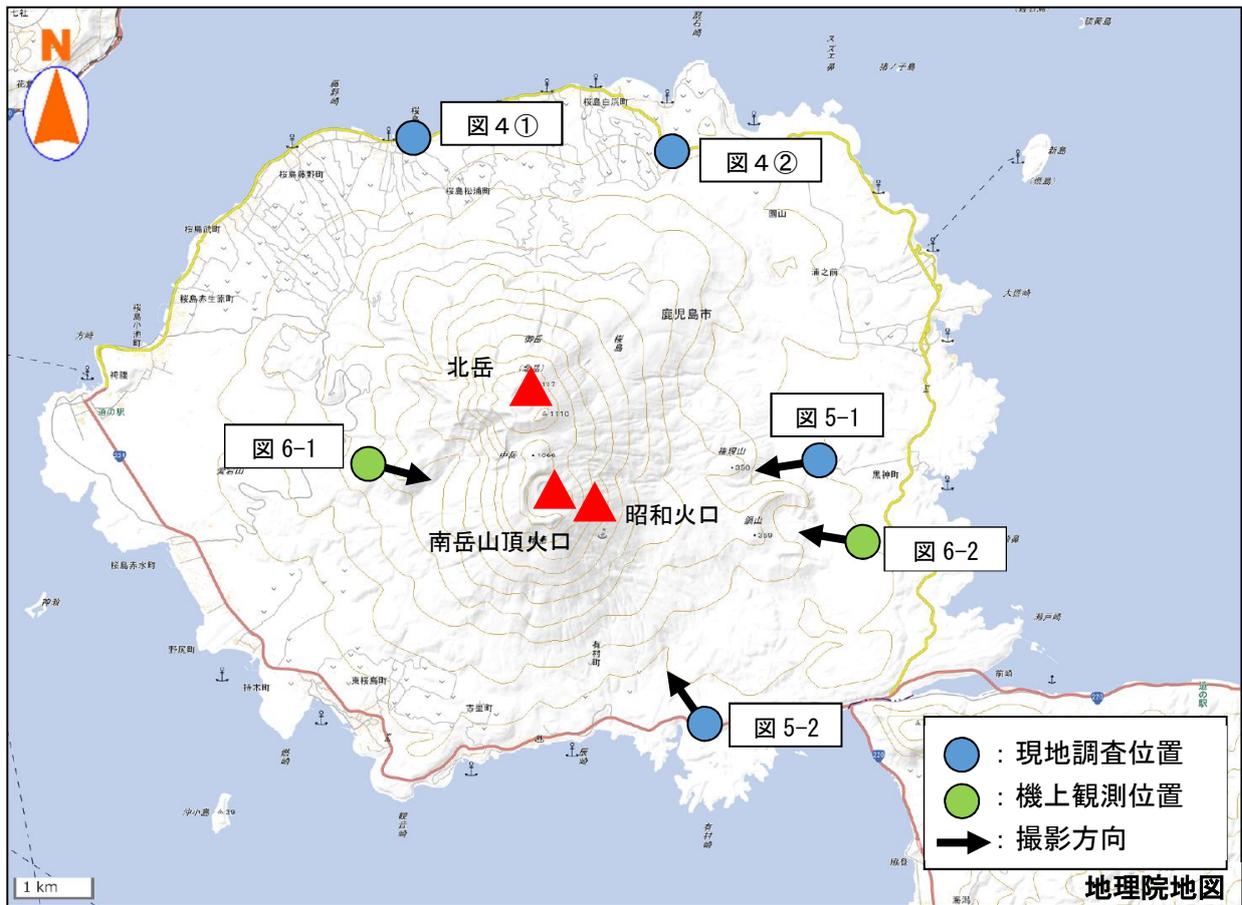


図3 桜島 図4～6の観測位置及び撮影方向



図4 桜島 2月15日の桜島西道町及び桜島白浜町における降灰の状況

2月14日18時33分に南岳山頂火口で発生した爆発をうけて、翌日(15日)桜島島内において実施した現地調査では、桜島武町から高免町の範囲で降灰が確認され、桜島西道町から桜島松浦町の一部及び桜島白浜町から高免町の一部では、道路の白線が降灰で覆われる程度の多量の降灰を確認しました。なお、小さな噴石は確認されませんでした。

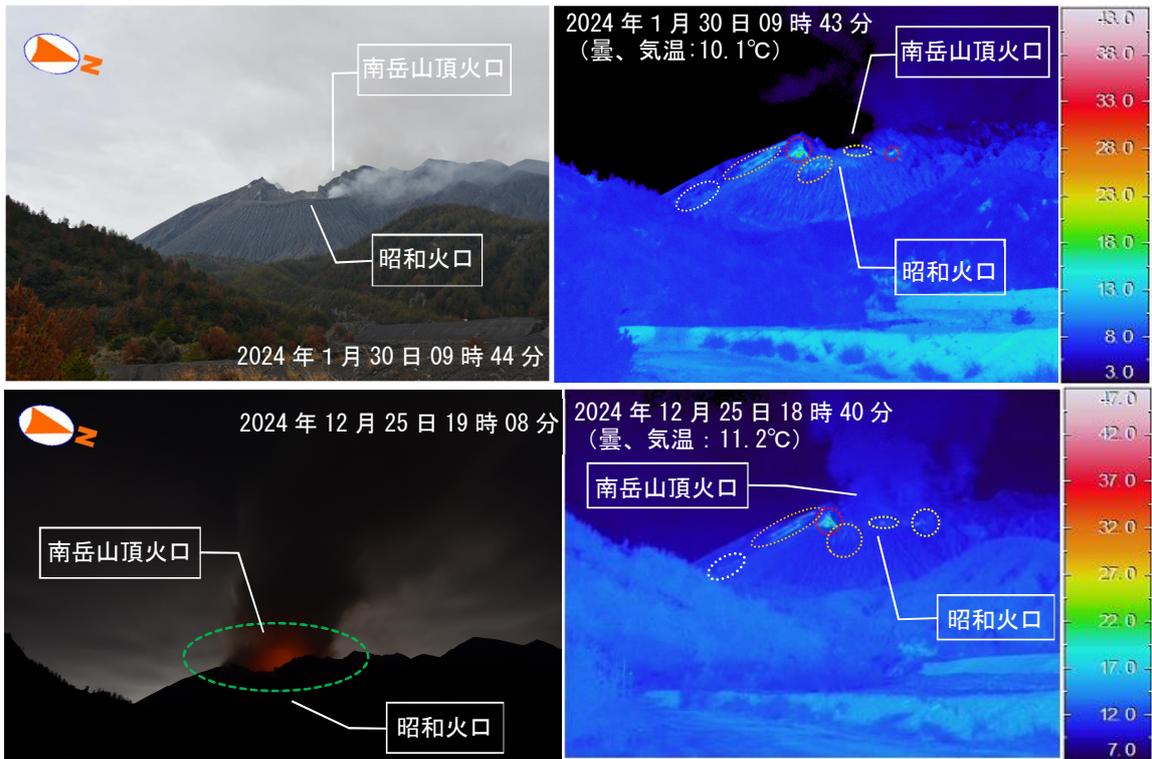


図 5-1 桜島 南岳山頂火口及び昭和火口周辺の状況（黒神町（黒神河原）から観測）

- ・南岳山頂火口において、肉眼でようやく認められる程度の火映を時々観測しました（白破線内）。
- ・山頂方向から注意深くしていると聞こえる程度の鳴動を時々観測しました。
- ・赤外熱映像装置による観測では、昭和火口内壁の一部（赤破線内及び黄破線内）、昭和火口近傍（橙破線内）及び南岳南東山腹（白破線内）で引き続き地熱域を確認しました。

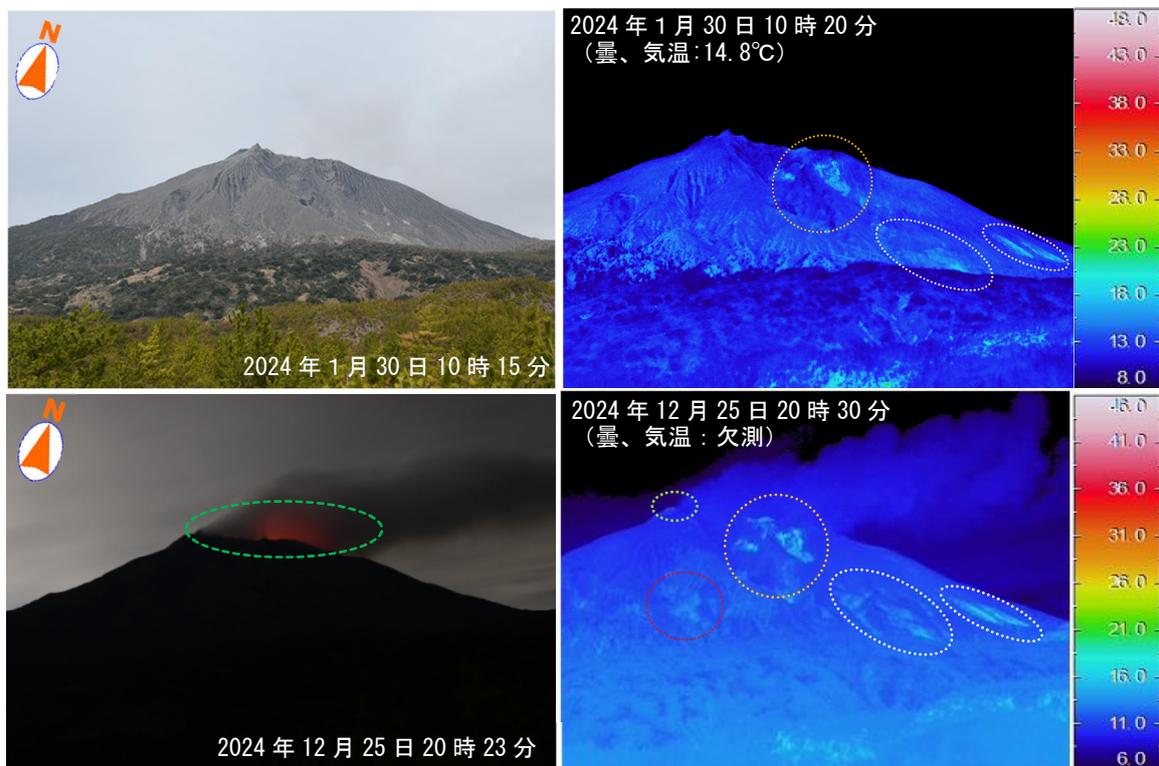


図 5-2 桜島 南岳山頂火口、昭和火口周辺及び南側山腹付近の状況

（有村町（有村溶岩展望所）から観測）

- ・南岳山頂火口において、肉眼でようやく認められる程度の火映を時々観測しました（白破線内）。
- ・赤外熱映像装置による観測では、南岳山頂火口縁（緑破線内）、南岳南南東山腹（赤破線内）、南岳南東山腹（白破線内）及び昭和火口近傍（橙破線内）で引き続き地熱域を確認しました。

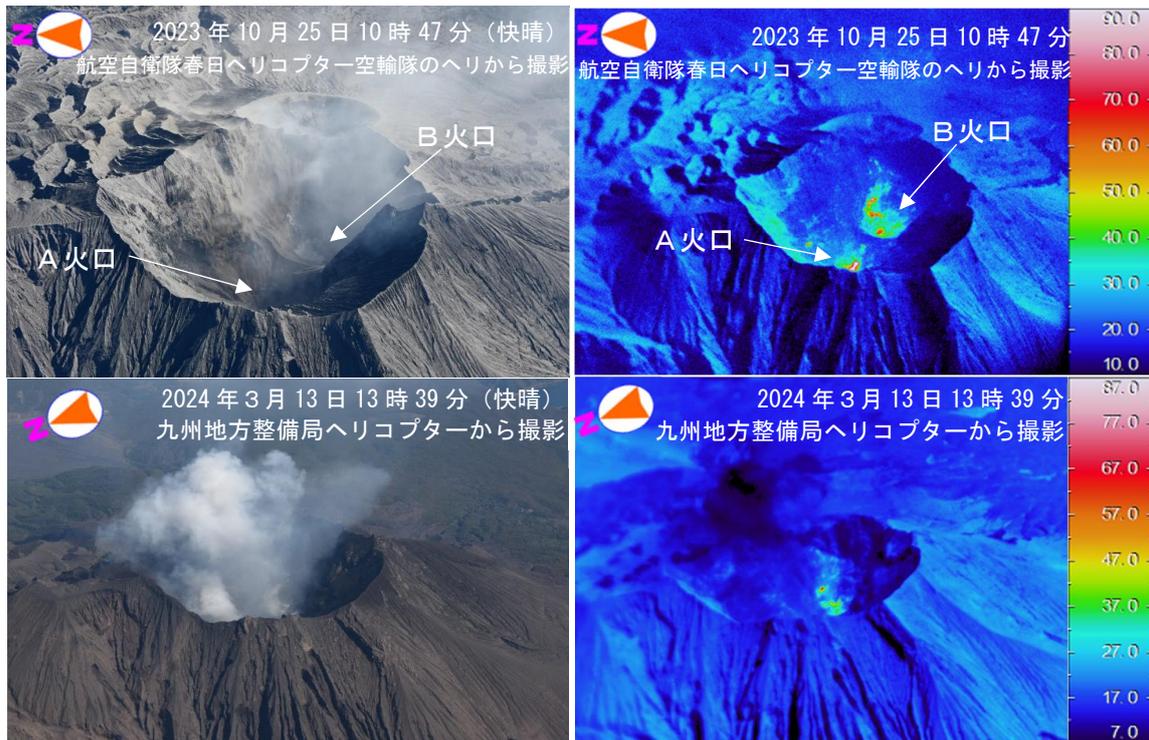


図 6-1 桜島 南岳山頂火口内と周辺の状況

3月13日に九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、南岳山頂火口において白色の噴煙が火口縁上 200~300m程度上がり、噴煙が火口内に充満し、火口内を確認することができませんでしたが、火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

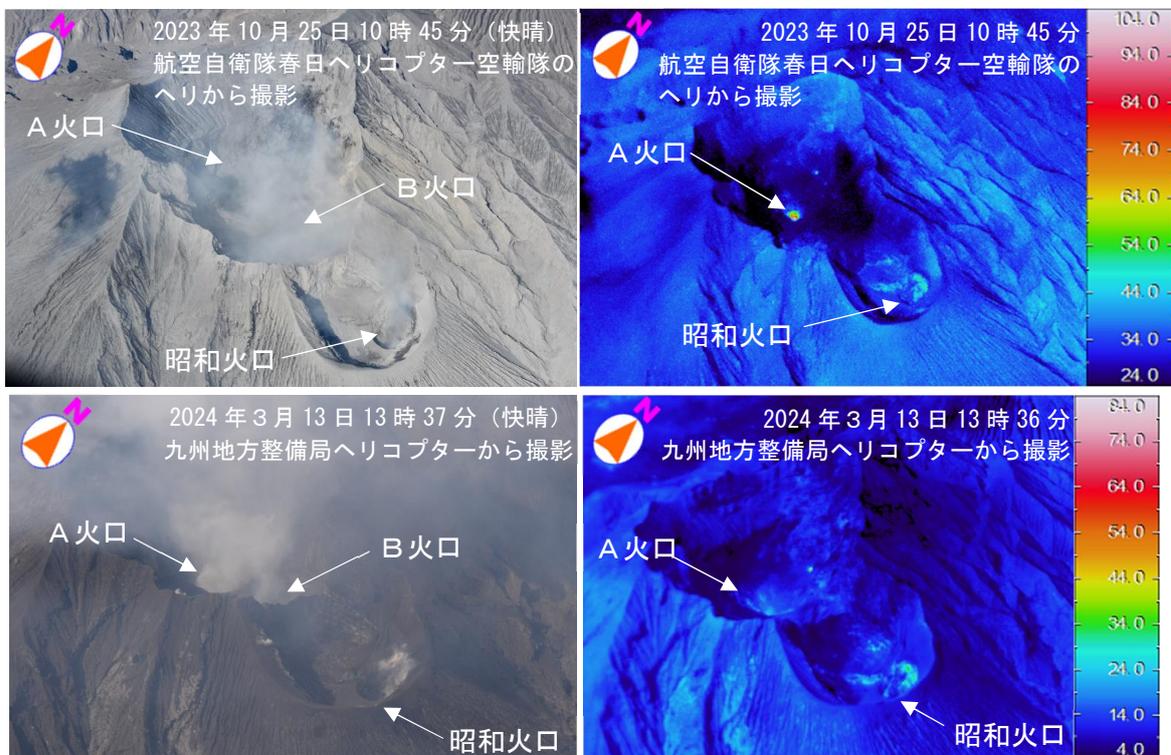


図 6-2 桜島 昭和火口内と周辺の状況

3月13日に九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、昭和火口内では、火口内北側の火孔から引き続き白色噴煙が上がっていることを確認し、昭和火口内に引き続き地熱域を確認しましたが、これまでの観測結果と比較して特段の変化は認められませんでした。

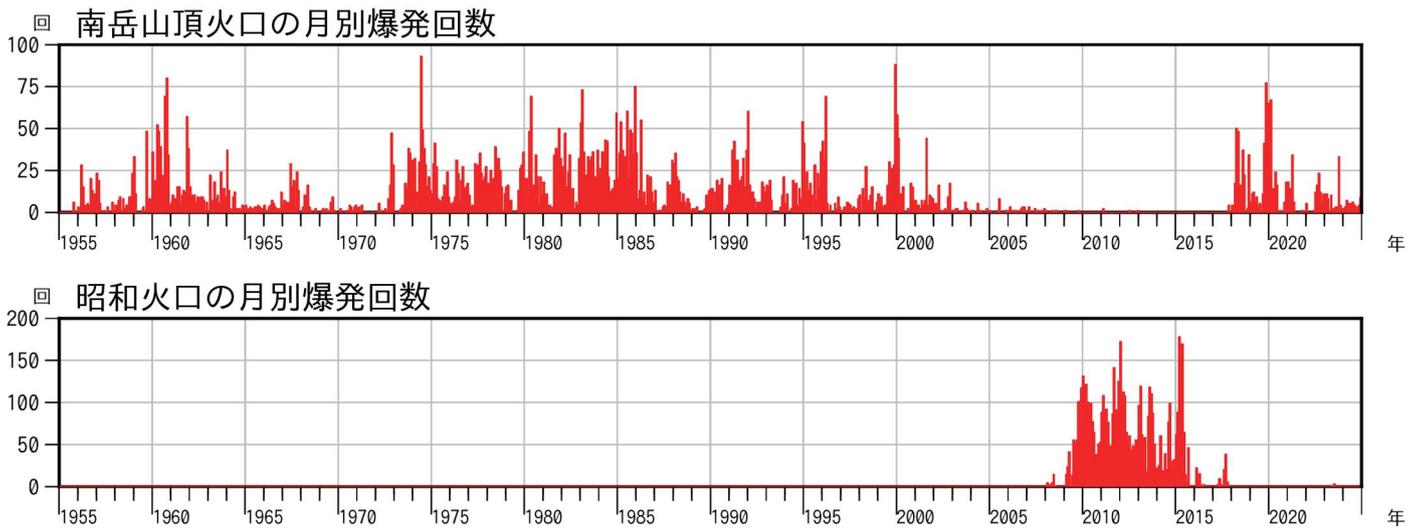


図 7-1 桜島 南岳山頂火口（上図）と昭和火口（下図）の月別爆発回数（1955年1月～2024年12月）

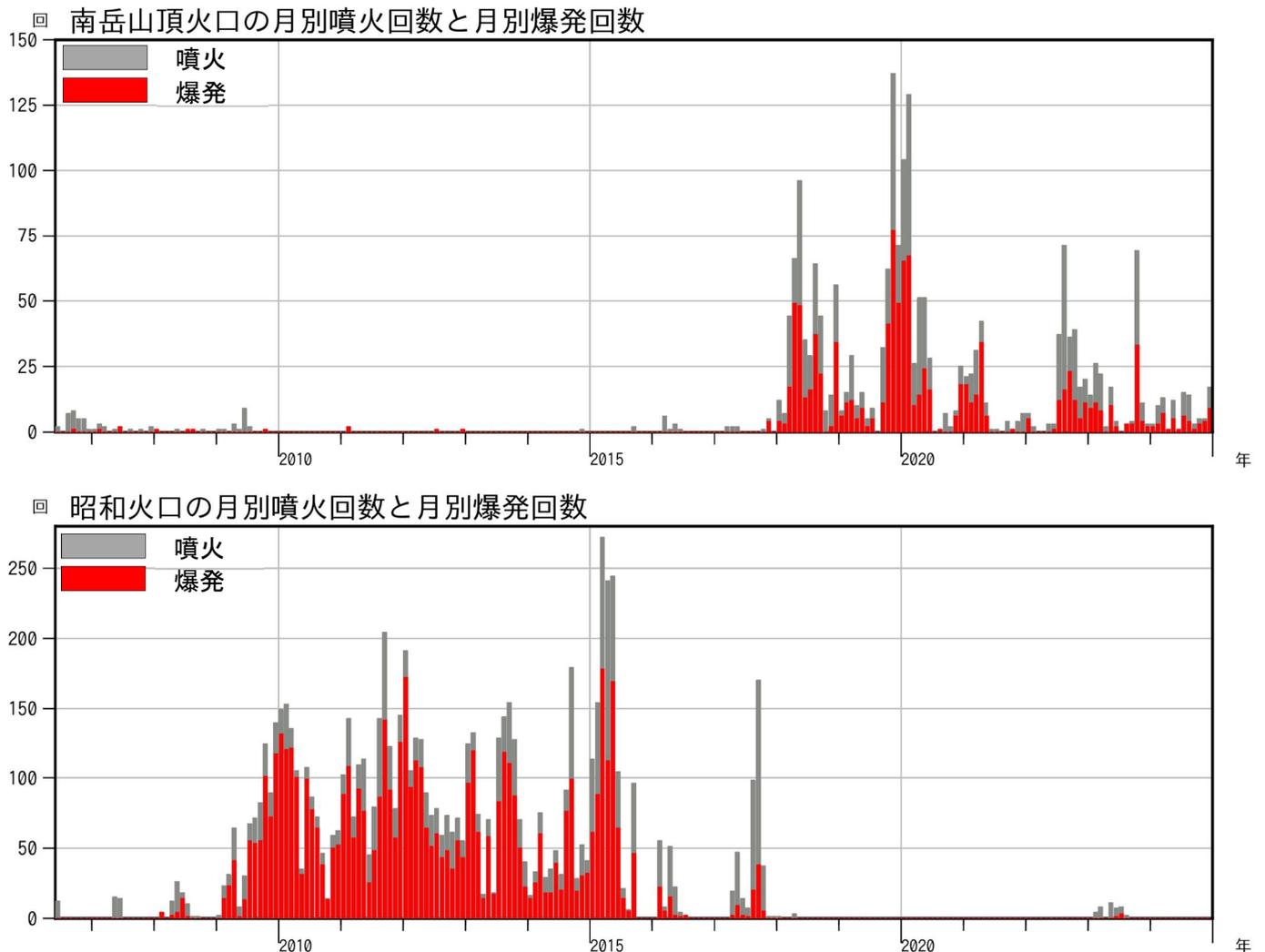


図 7-2 桜島 南岳山頂火口（上図）と昭和火口（下図）の月別噴火回数（灰色）と月別爆発回数（赤色）（2006年6月～2024年12月）

<2024年の状況>

- ・南岳山頂火口では、噴火が99回発生し、このうち46回が爆発でした（2023年：噴火175回、爆発85回）。
- ・昭和火口では、噴火は観測されませんでした。（2023年：噴火40回、爆発4回）。

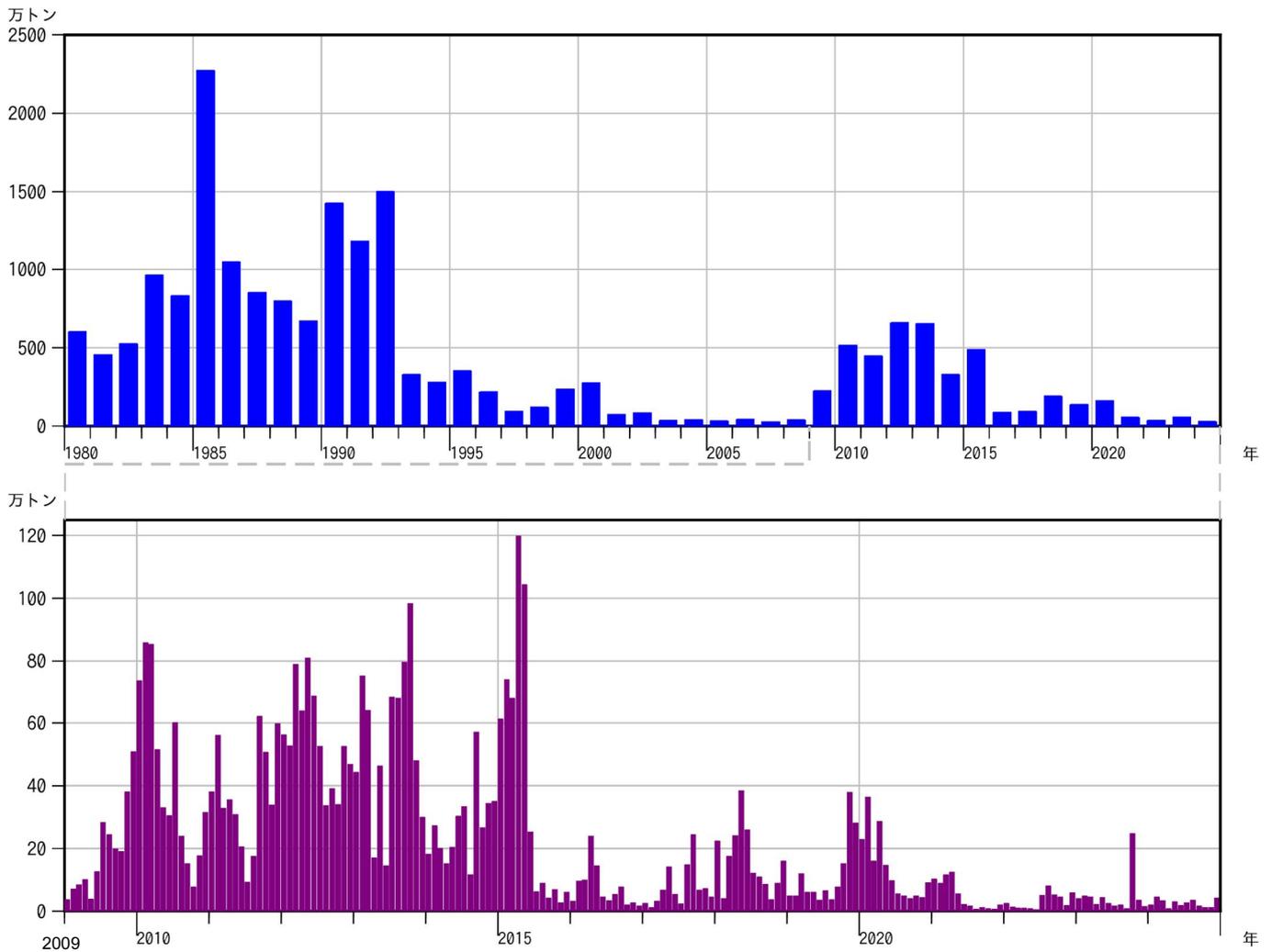


図8 桜島 鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量  
 (上段：1980年1月～2024年12月の年別値、下段：2009年1月～2024年12月の月別値)

2024年の総噴出量は、約28万トン（2023年：約55万トン）でした。

※鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成しました。

※降灰の観測データには、風により巻き上げられた火山灰が含まれている可能性があります。

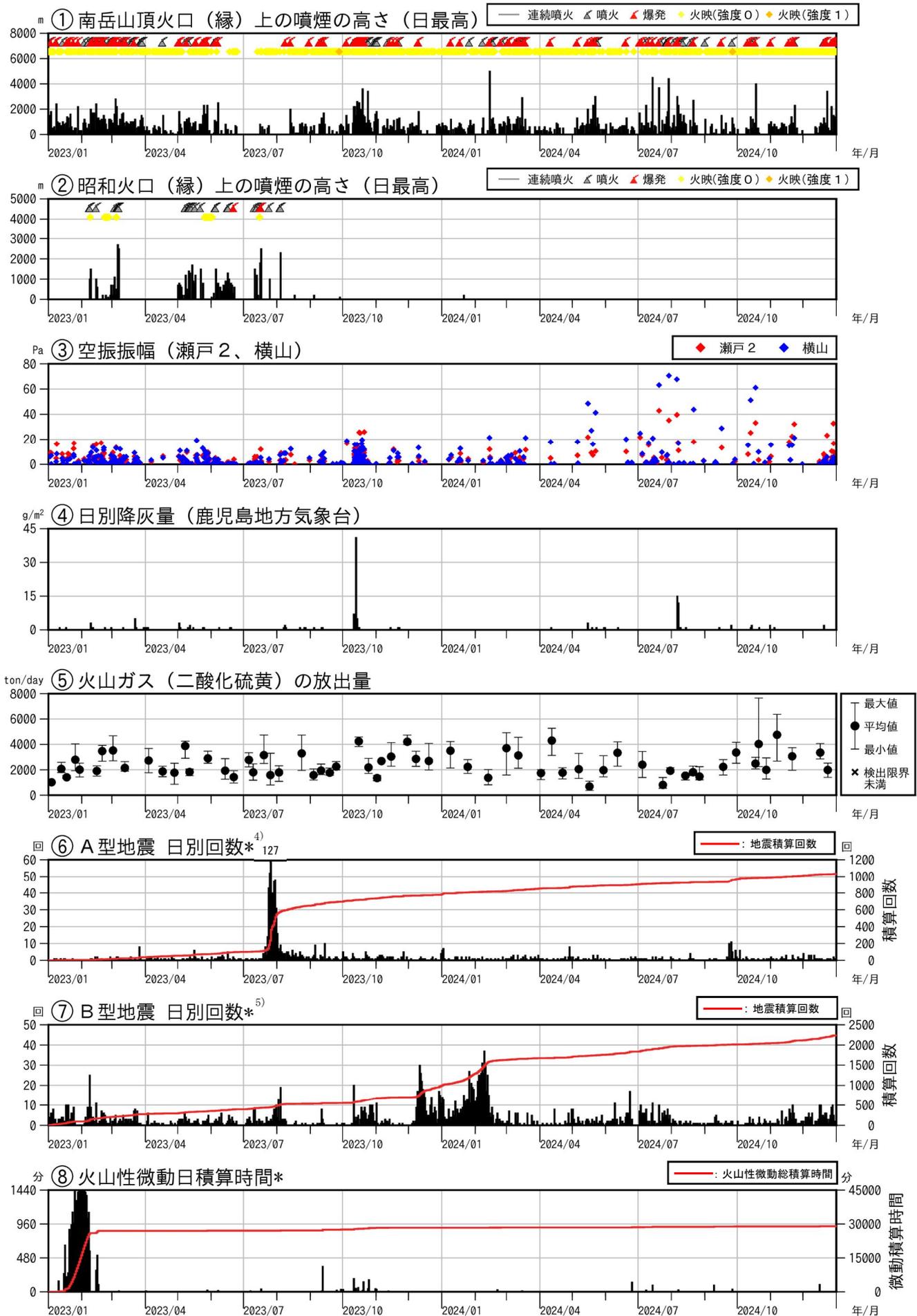


図9 桜島 最近2年間の活動経過図（2023年1月～2024年12月）

※図の説明は次ページに掲載しています。

## 図9の説明

## &lt;2024年の状況&gt;

- ・南岳山頂火口では、引き続き噴火活動がみられました。噴火は99回発生し、前年（2023年：175回）と比較して減少しました。このうち爆発は46回と前年（2023年：85回）と比較して減少しました。噴煙の高さが火口縁上3,000m以上に達する噴火は8回発生し、前年（2023年：2回）と比較して噴煙量の多い噴火が増加しました。5月から10月にかけては、空振の振幅が比較的大きな爆発が時々発生しました。  
また、同火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映をほぼ連日観測しました。
- ・昭和火口では、2023年2月8日以降噴火活動が時々みられており、2024年は1月21日16時00分にのみごく小規模な噴火が発生しましたが、以降噴火は観測されず、活動は低調な状態で経過しました（2023年、噴火：40回、爆発：4回）。  
また、同火口では火映は観測されませんでした。
- ・鹿児島地方気象台では、年合計では51g/m<sup>2</sup>（降灰日数44日）の降灰を観測し、月別では8月が最も多く月合計30g/m<sup>2</sup>を観測しました。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、700～4,800トンでした。火山ガスの放出量は引き続き、2022年7月以降概ね多い状態で経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性地震は年間で1,696回発生し、前年（2023年：1,900回）と比較してやや減少しました。このうち、桜島南西側を震源とする火山性地震は年間で68回発生し、前年（2023年：594回）と比較して減少しました。2023年12月から2024年2月にかけては、B型地震のわずかな増加がみられました。
- ・火山性微動は主に噴火に伴って時々発生しました。火山性微動の継続時間の年合計は11時間9分（2022年：472時間27分）で、前年と比較して減少しました。

※①②では白色及び色不明の噴煙の高さは除いています。

※①②で高感度の監視カメラでようやく認められる程度の火映を黄色で、現地調査等において肉眼でようやく認められる程度の火映を橙色で示しています。

\*「あみだ川観測点及び横山観測点」で計数（計数基準 あみだ川：水平動2.5μm/s以上 横山：水平動1.0μm/s以上）

※あみだ川観測点地震計の機器障害により、赤生原観測点（水平動0.5μm以上）で計数している期間があります。

- 4) 火山性地震のうち、A型地震はP波やS波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で、一般的に起こる地震と同様、応力集中による地殻の破壊によって発生していると考えられますが、火山活動に直接関係する発生原因として、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊などの例があります。
- 5) 火山性地震のうち、B型地震は相が不明瞭で比較的周期が長い地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。

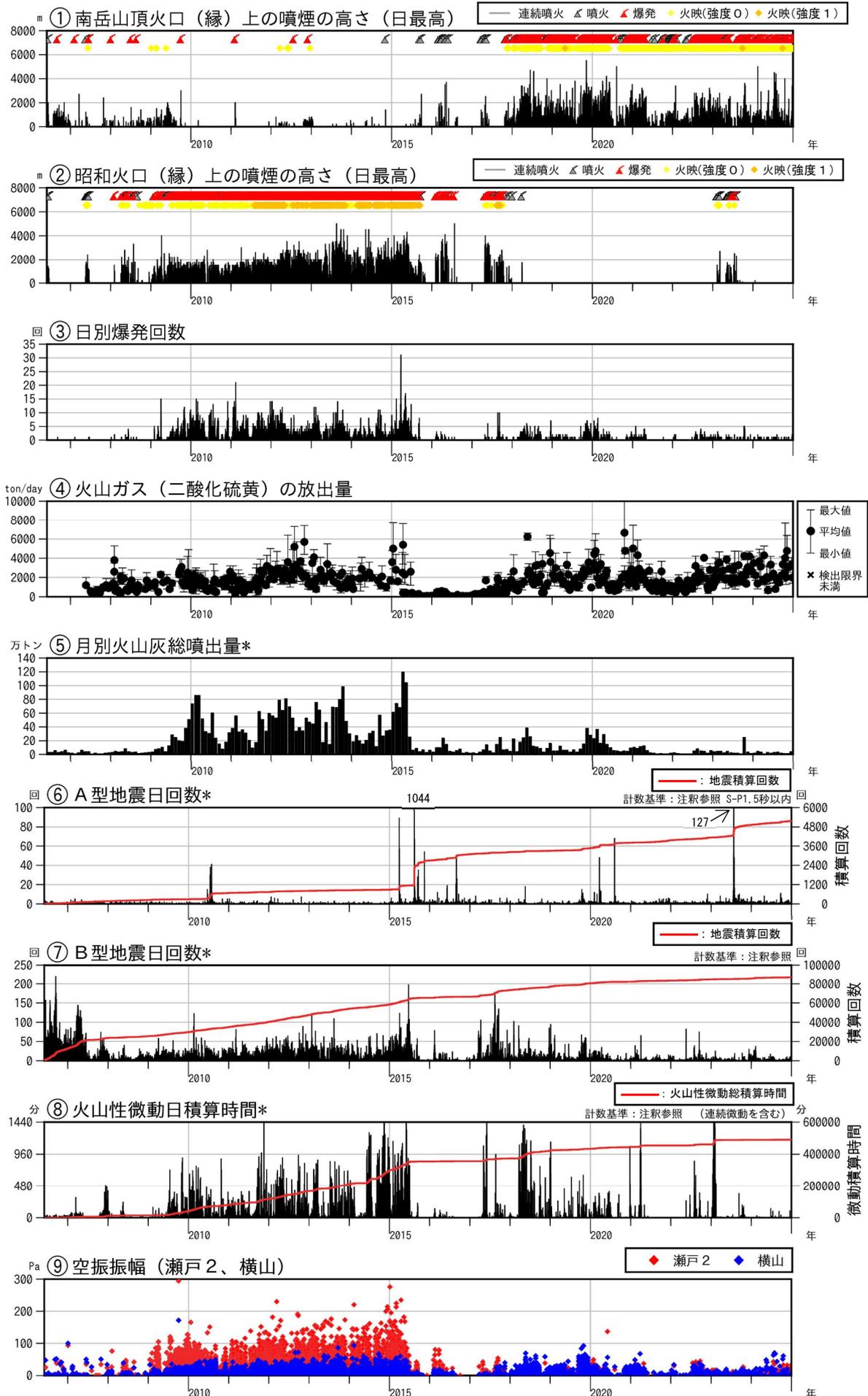


図10 桜島 昭和火口噴火活動再開（2006年6月）以降の活動経過図（2006年6月～2024年12月）

※図の説明は次ページに掲載しています。

図10の説明

<2024年の状況>

- ・2024年の総降灰量は約28万トンでした（2023年：約55万トン）。昭和火口での噴火活動が主であった2010年から2015年頃に比べて少ない状態で経過しました。
- ・火山ガスの放出量は2022年7月以降概ね多い状態で経過しました。

\*鹿児島県の降灰観測データをもとに鹿児島地方気象台で解析して作成しました。降灰の観測データには、桜島で噴火がない場合でも風により巻き上げられた火山灰が含まれている可能性があります。

\*2014年5月23日までは「赤生原観測点及び横山観測点」で計数（計数基準 赤生原：水平動0.5 $\mu$ m/s 横山：水平動1.0 $\mu$ m/s）していましたが、2012年7月19～26日、11月18～22日は赤生原観測点障害のため、2014年5月24日以降は赤生原周辺の工事ノイズ混入のため「あみだ川観測点及び横山観測点」で計数（計数基準 あみだ川：水平動2.5 $\mu$ m/s 横山：水平動1.0 $\mu$ m/s）しています。

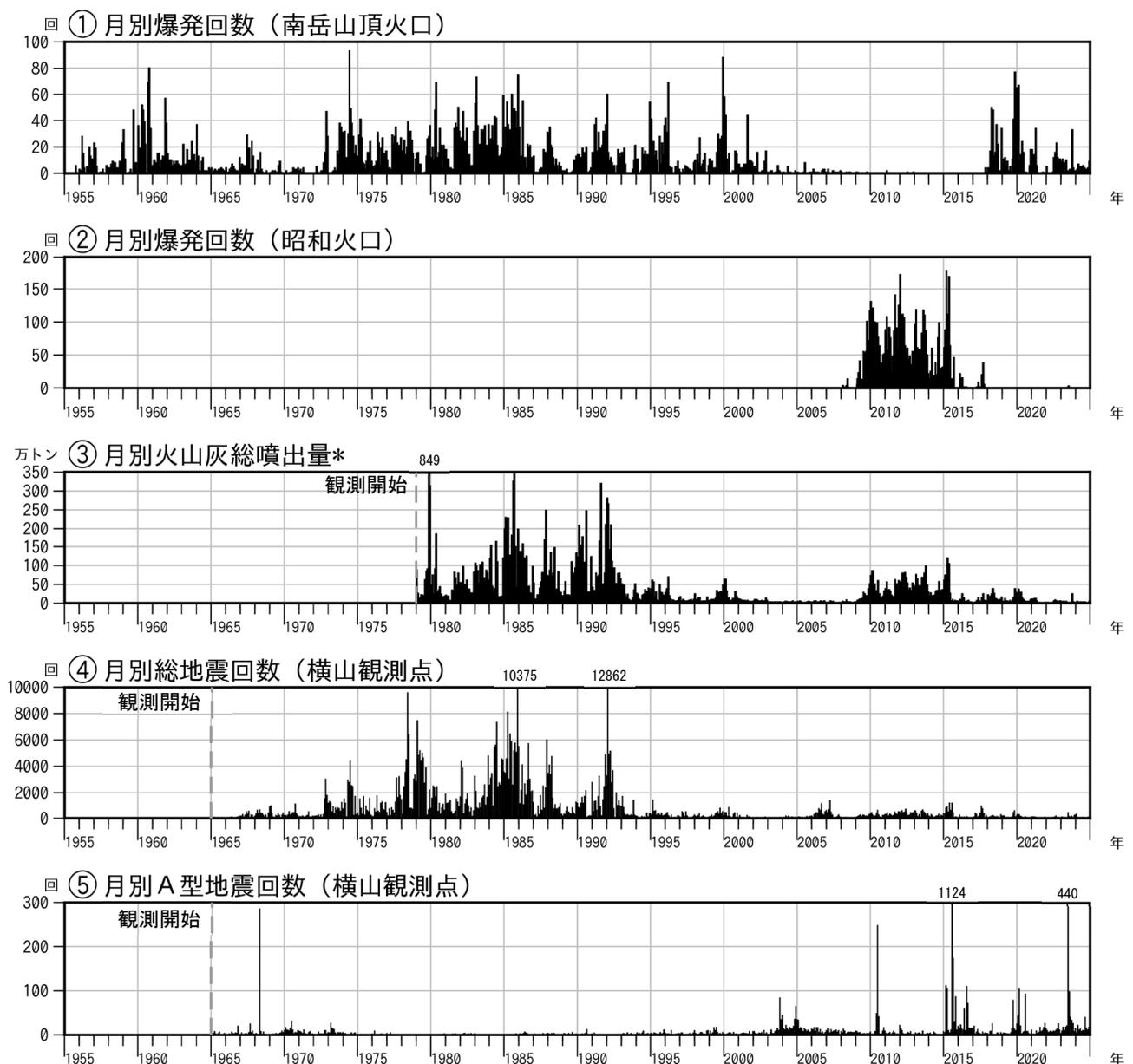


図11 桜島 長期の活動状況（1955年～2024年）

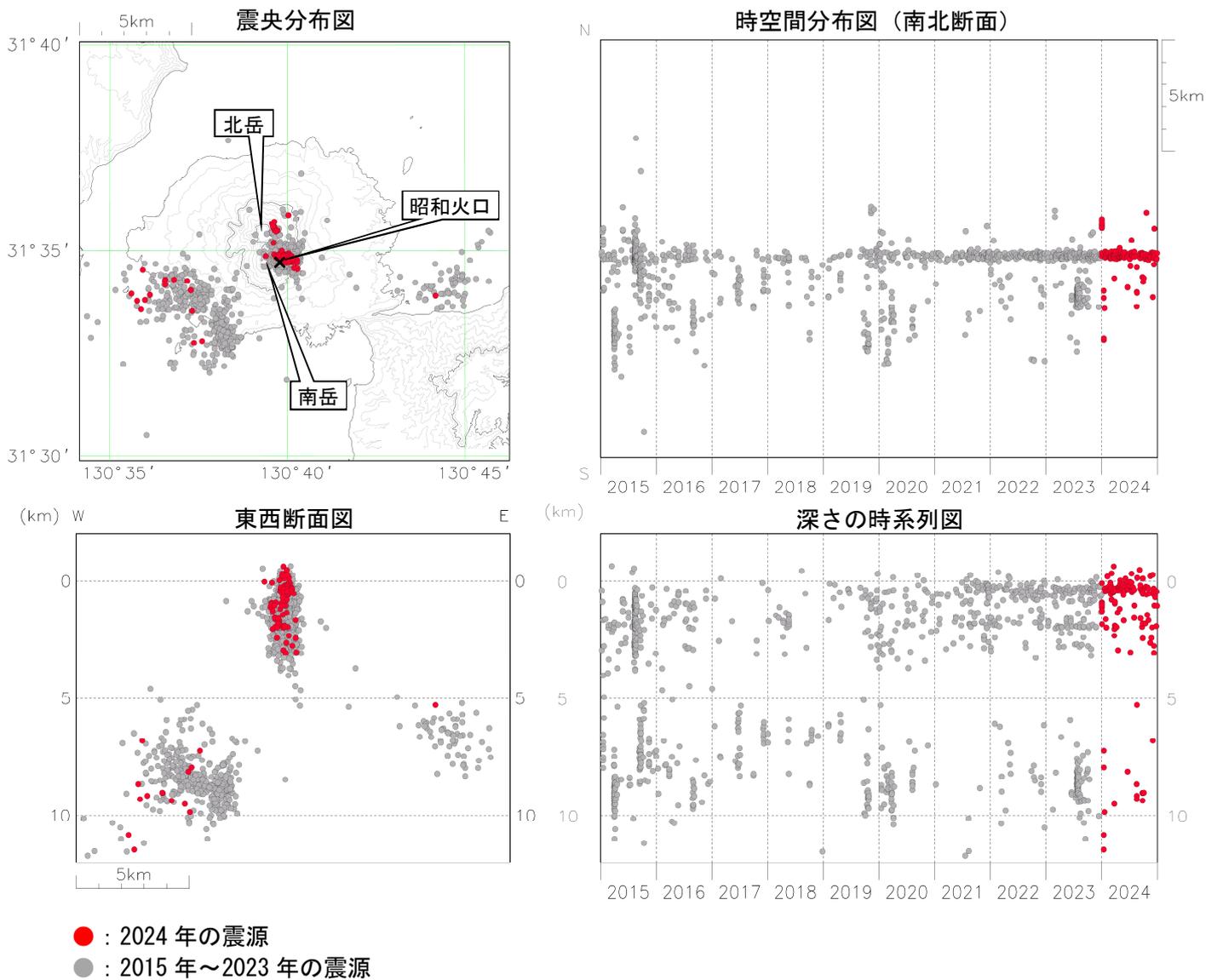


図 12 桜島 火山性地震の震源分布図 (2015 年～2024 年)

<2024 年の状況>

震源は、主に南岳直下のごく浅いところから深さ 3 km 付近、北岳付近の深さ 0 ~ 1 km 付近、桜島南西側の深さ 7 ~ 11 km 付近及び桜島東側の深さ 5 km 付近に分布しました。

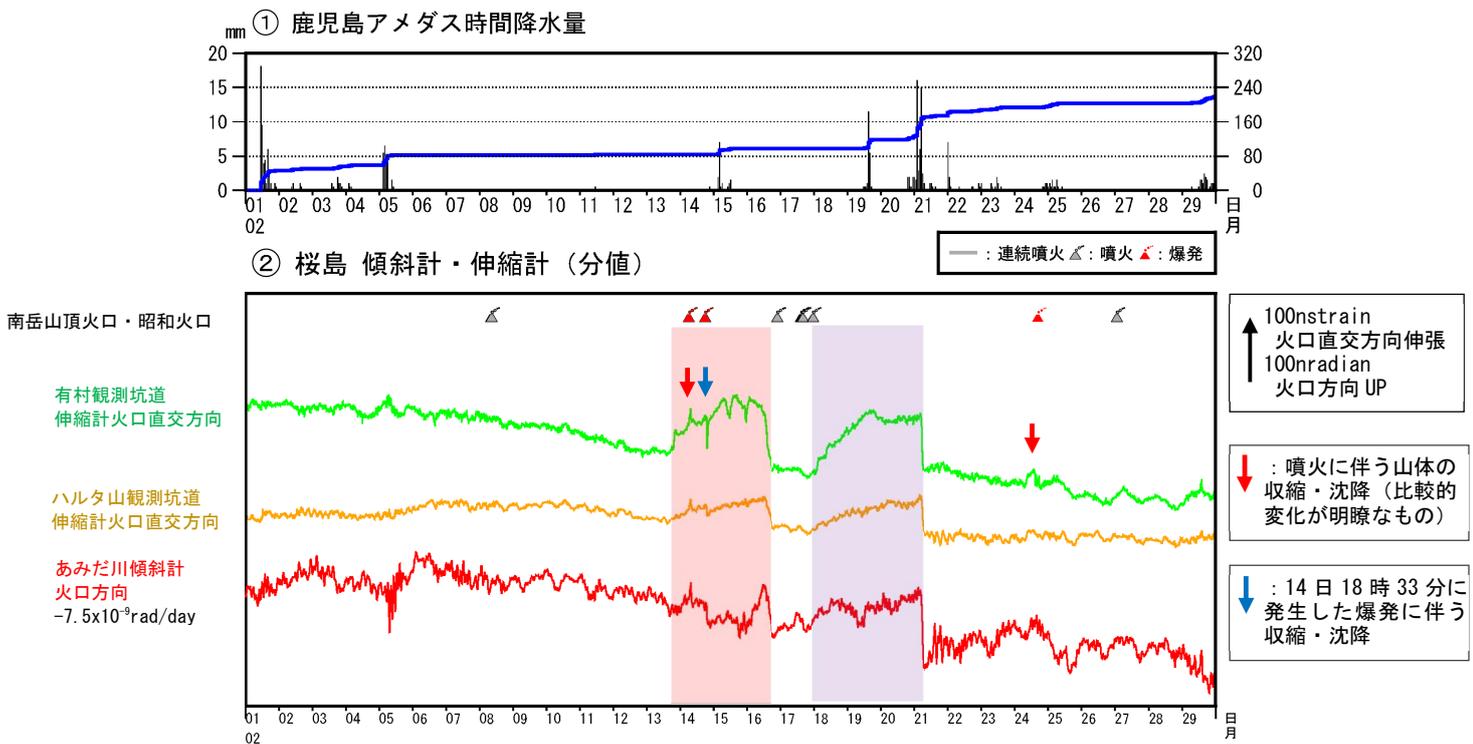


図13 桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2024年2月)

- ・一部の噴火に伴い、噴火前のわずかな山体の膨張（隆起）及び噴火後のわずかな山体の収縮（沈降）を観測しました（赤矢印及び青矢印）。
- ・13日18時頃から、山体の膨張を示す地殻変動を観測しましたが（赤色領域）、16日のごく小規模な噴火の発生により解消しました。この地殻変動を観測している中で、14日18時33分に発生した爆発に伴うわずかな山体の膨張や収縮が見られました（青色矢印）。
- ・18日00時頃から、山体の膨張を示す地殻変動を観測しましたが（紫色領域）、21日04時頃から06時頃にかけて緩やかに解消しました。同時時間帯に空振を伴う火山性微動が発生しましたが、雲のため噴火の発生状況は不明でした。

※あみだ川傾斜計では長期的に北側が上がる傾斜変動（ $-7.5 \times 10^{-9}$  rad/day）がみられていることから、これを補正したうえで表示しています。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っています。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用しています。

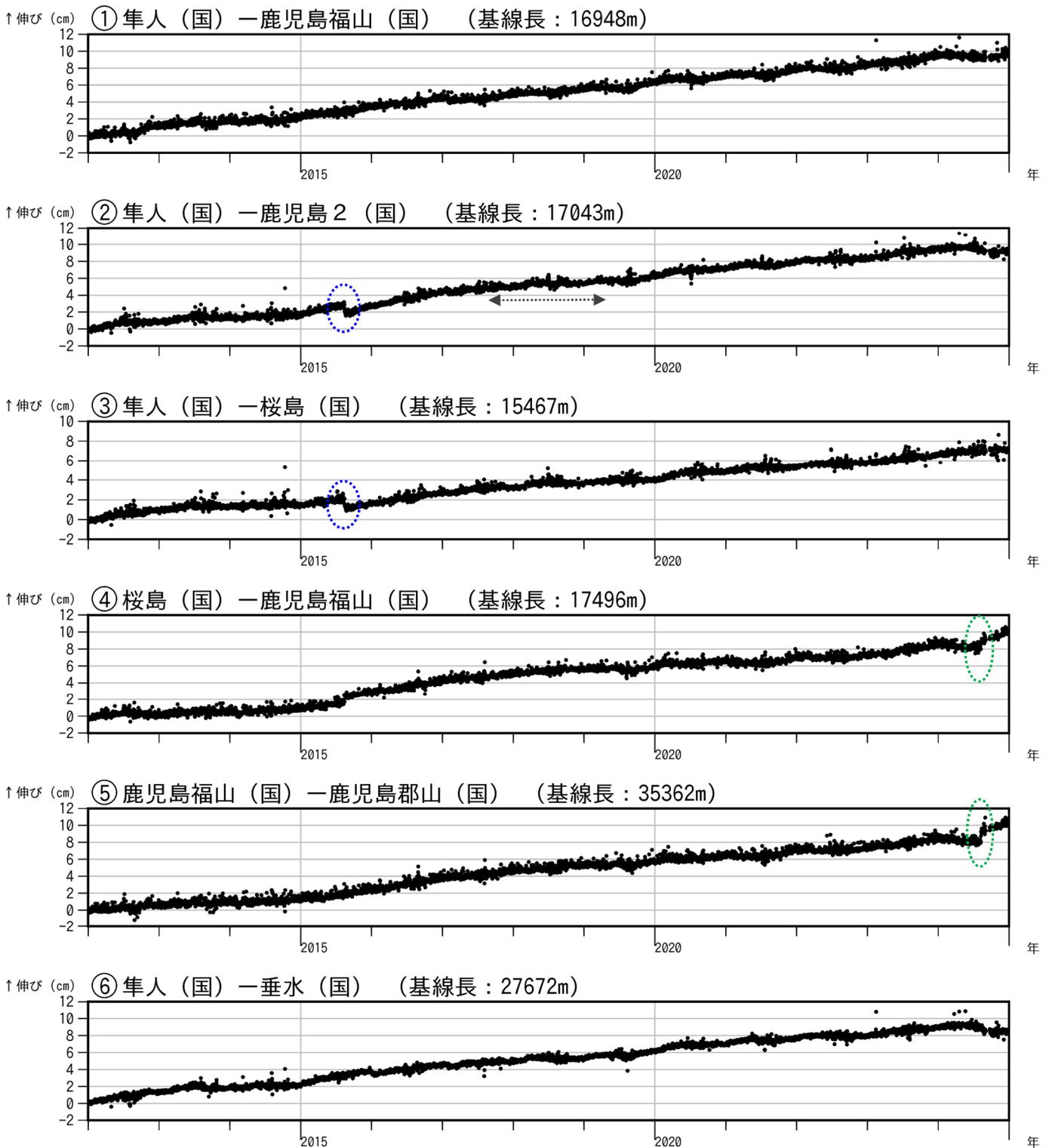


図 14-1 桜島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2012 年 1 月～2024 年 12 月)

始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では、長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられています。始良カルデラの地下深部には、マグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられます。

これらの基線は図 15 の①～⑥に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

基線②は霧島山の深い場所での膨張によるとみられる変動の影響を受けている可能性があります（黒破線矢印期間内）。

基線④⑤の緑色の破線内は 2024 年 8 月 8 日の日向灘の地震による変動です。

青色の破線円内は 2015 年 8 月の急激な山体膨張による変動です。

（国）：国土地理院

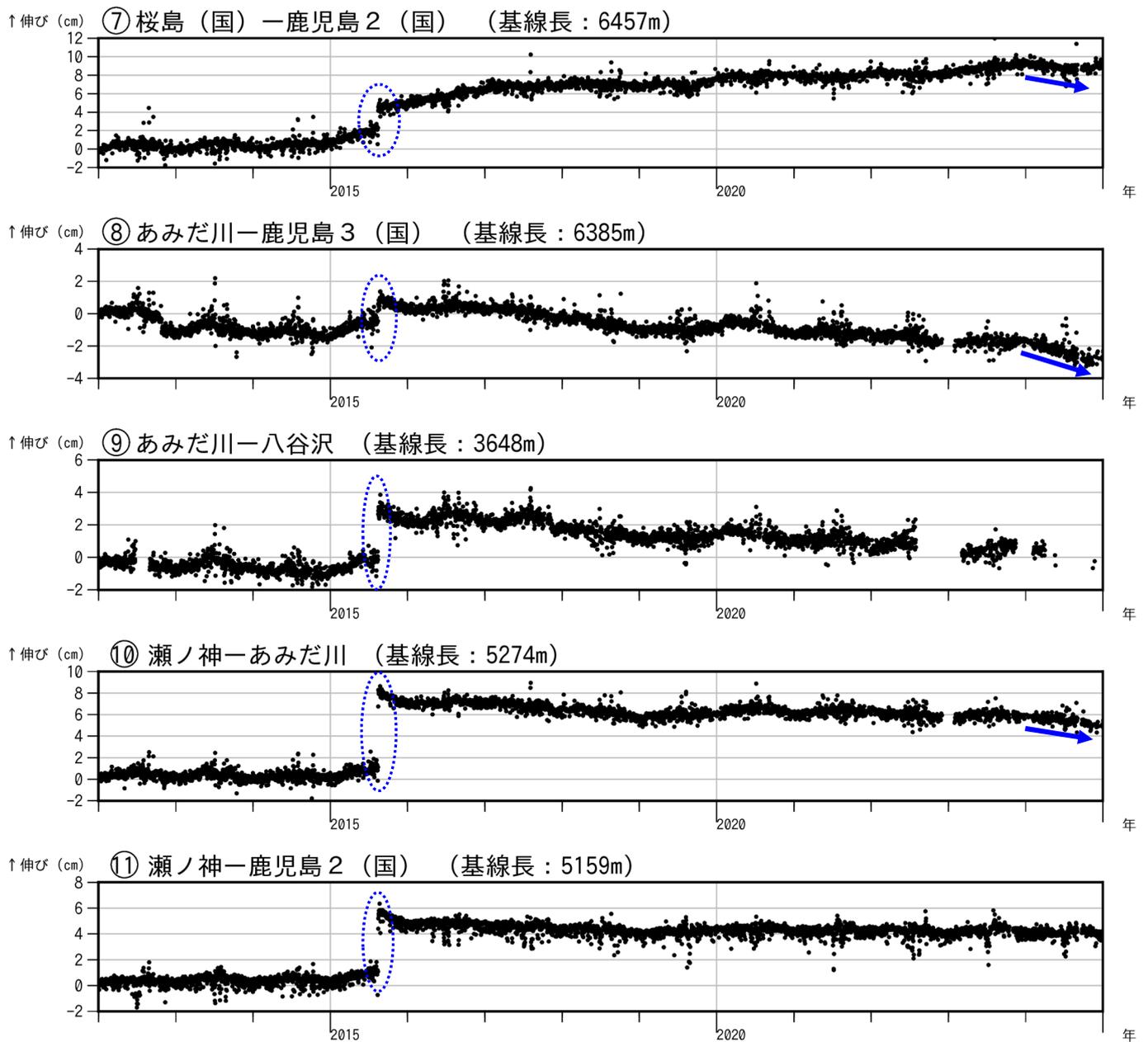


図 14-2 桜島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2012 年 1 月～2024 年 12 月)

GNSS 連続観測では、桜島島内の基線で 2024 年 1 月頃から同年 10 月頃にかけて山体収縮に伴うとみられるわずかな縮みが認められました (青矢印)。

これらの基線は図 15 の⑦～⑪に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

青色の破線円内は 2015 年 8 月の急激な山体膨張による変動です。

(国) : 国土地理院

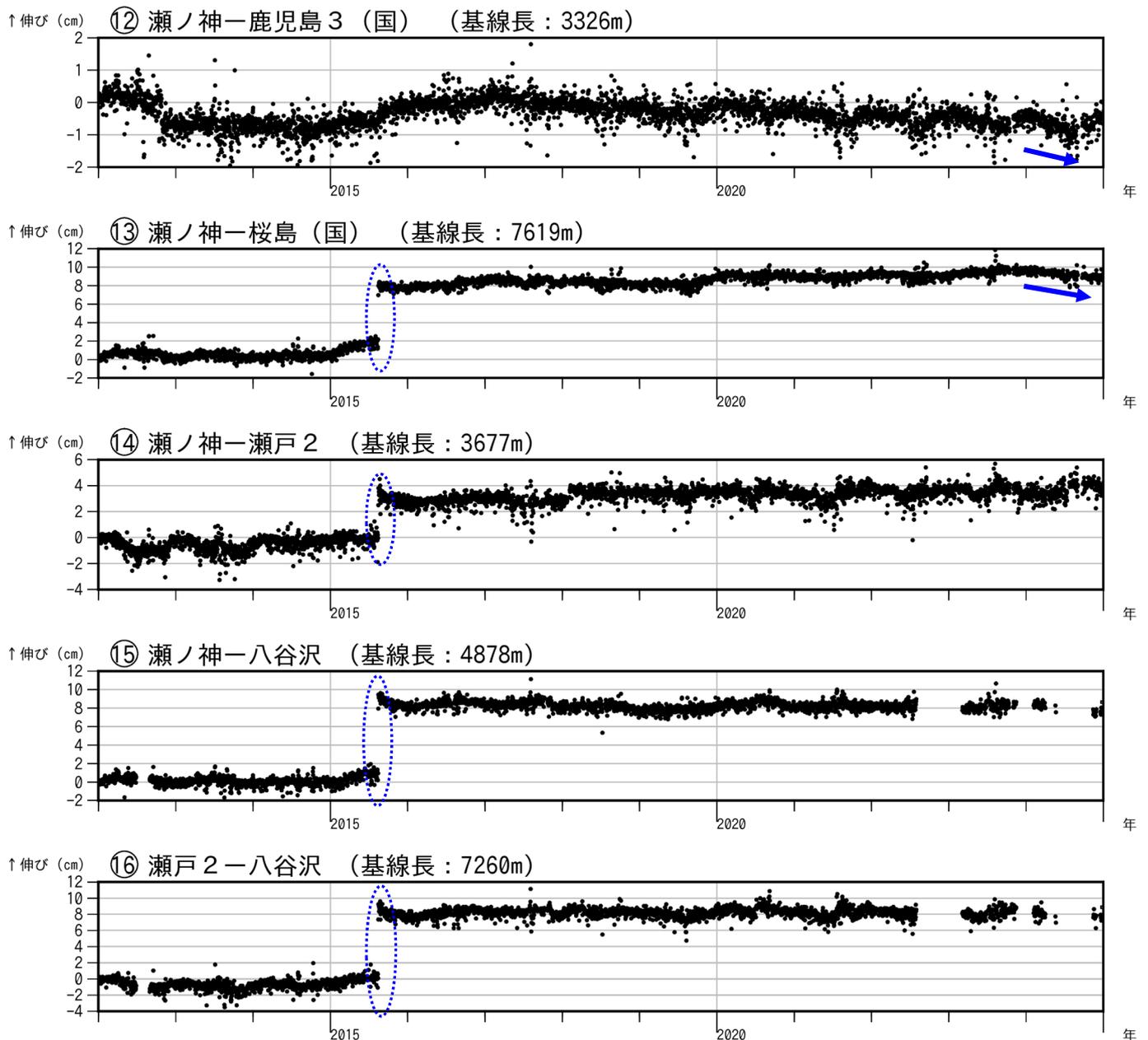


図 14-3 桜島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2012 年 1 月～2024 年 12 月)

GNSS 連続観測では、桜島島内の基線で 2024 年 1 月頃から同年 10 月頃にかけて山体収縮に伴うとみられるわずかな縮みが認められました (青矢印)。

これらの基線は図 15 の⑫～⑯に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

青色の破線円内は 2015 年 8 月の急激な山体膨張による変動です。

(国)：国土地理院

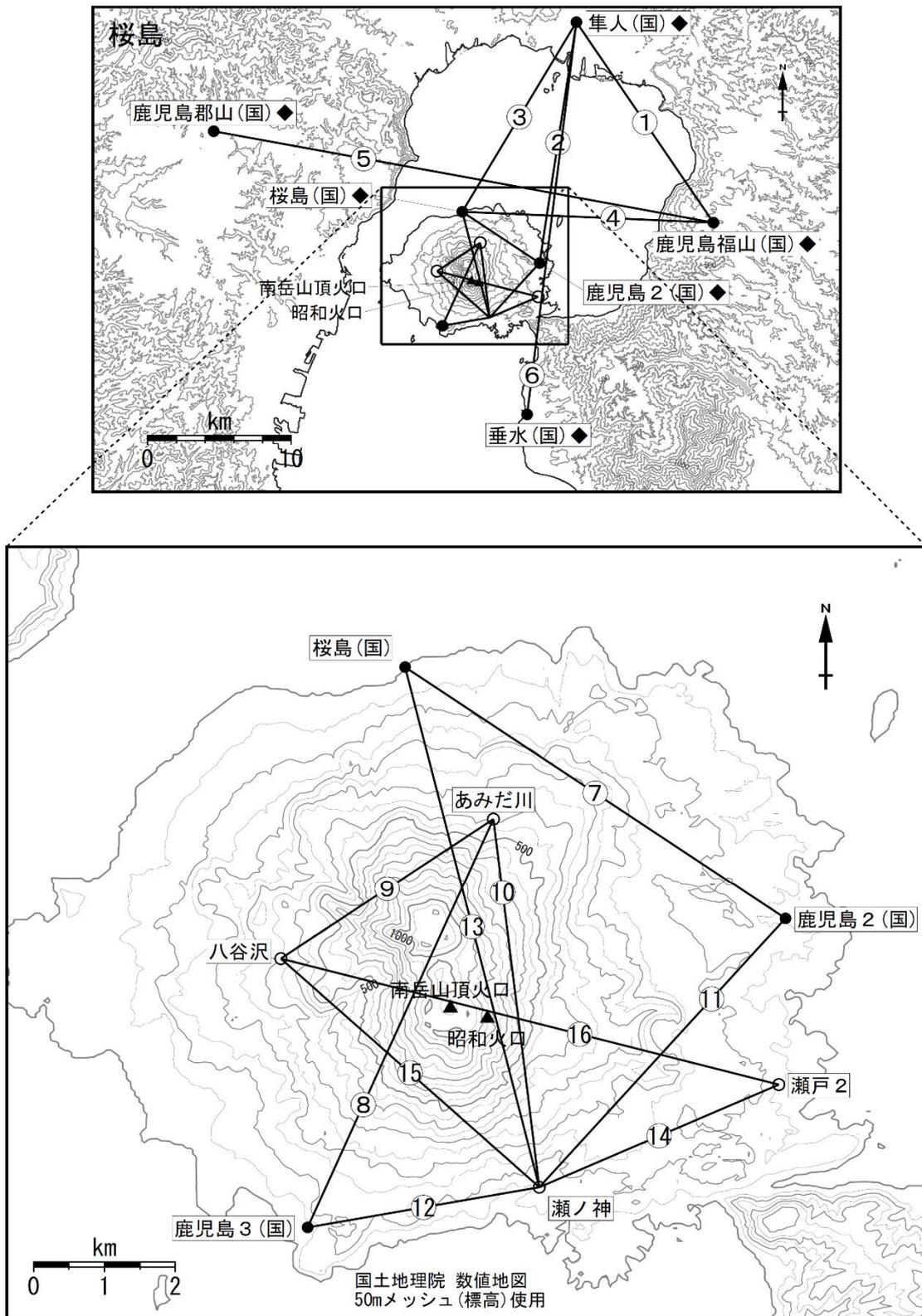


図 15 桜島 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院

表1 桜島 2024年の主な噴火（火口縁上の噴煙の高さ3,000m以上、火砕流、噴石4合目ほか顕著な現象を観測した噴火）

現象	火口	噴火発生日時 (年月日時分)	噴煙の 色	噴煙量	噴煙の火口縁 上の高さ(m)	流向	噴石 (合目)	火砕流 (m)	桜島島内 最大空振 (Pa)
爆発	山頂 (B)	2024/2/14 18:33	灰白色	多量	5000	北東	5	-	5.7 (瀬戸)
爆発	山頂 (A)	2024/5/22 17:18	灰白色	やや多量	3000	北西	6	-	41.2 (横山)
爆発	山頂 (A)	2024/7/14 18:19	灰白色	多量	4500	北東	6	-	20.8 (瀬戸)
爆発	山頂 (A)	2024/7/20 13:58	灰白色	多量	3700	北東	7	-	63.1 (横山)
爆発	山頂 (A)	2024/7/29 16:46	灰白色	多量	4400	南東	4	-	70.6 (横山)
爆発	山頂 (A)	2024/8/6 0:37	灰白色	やや多量	3000	南西	4	-	67.7 (横山)
爆発	山頂 (A)	2024/10/18 1:21	灰白色	多量	4000	直上	5	-	61.0 (横山)
爆発	山頂 (B)	2024/12/23 7:29	灰白色	やや多量	3400	南東	7	-	23.1 (瀬戸)

表2 桜島 2024年の噴火、爆発回数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0)	0	1(1)	0
2日	0	0	2(1)	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0
3日	0	0	1(1)	0	0	0	0	1(0)	0	0	0	0
4日	0	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0
5日	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0
6日	0	0	0	0	0	0	0	3(2)	0	0	0	0
7日	0	0	0	0	0	0	0	2(1)	0	0	0	0
8日	0	1(0)	0	0	0	0	1(0)	1(0)	0	0	0	0
9日	1(1)	0	1(1)	0	0	0	0	2(0)	0	0	0	0
10日	0	0	1(0)	1(1)	0	0	1(1)	0	0	0	0	0
11日	0	0	2(1)	0	0	0	0	0	0	1(1)	0	0
12日	0	0	0	0	0	0	0	1(0)	0	0	0	0
13日	0	0	2(1)	0	0	0	0	0	0	2(1)	0	0
14日	0	2(2)	0	0	0	0	3(1)	0	0	0	0	0
15日	0	0	2(0)	0	1(1)	0	0	0	0	1(0)	0	0
16日	0	1(0)	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0
17日	0	4(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18日	1(1)	0	1(1)	0	1(1)	0	0	1(0)	0	1(1)	1(1)	0
19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20日	0	0	0	0	5(1)	1(1)	1(1)	0	0	0	1(1)	4(0)
21日	0	0	0	0	0	0	0	3(1)	0	0	0	1(1)
22日	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1(1)
23日	0	0	0	0	0	0	1(0)	0	0	0	2(1)	2(2)
24日	0	1(1)	0	0	3(0)	0	0	0	0	0	0	0
25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26日	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0)	0	0	0
27日	1(0)	1(0)	0	0	0	0	1(0)	0	0	0	0	2(1)
28日	0	0	0	0	0	0	3(0)	0	0	0	0	0
29日	0	0	0	0	0	0	2(1)	0	0	0	0	3(2)
30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(0)
31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(2)
月合計	3(2)	10(3)	13(7)	1(1)	12(5)	1(1)	15(6)	14(4)	3(1)	5(3)	5(4)	17(9)
年合計	99(46)											

括弧内は爆発回数を示しています。

表3 桜島 2024年鹿児島地方気象台の日別降灰量(単位は「g/m<sup>2</sup>」)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日											0	
2日												
3日												
4日								0			1	
5日												
6日				0		0		15				
7日						0		12				
8日						0		1				
9日								1				
10日			0									
11日				1						×	0	
12日						1						
13日						0		0		1		
14日					0	0		1	1	2		
15日					3					0		
16日								0				
17日												
18日		0							0	0		
19日					1						0	
20日												2
21日					0					1		
22日					0					0		
23日					1							
24日					0							
25日		0							2			
26日												
27日										0		
28日								×				
29日								×				
30日					1			×				
31日					1			×		2		
月合計		0	0	1	7	1		30	3	6	1	2
年合計	51											

- ・「0」は0.5g/m<sup>2</sup>未満のわずかな降灰を観測したことを表します。
- ・空欄は降灰を全く観測しなかったことを表します。
- ・「×」は欠測を表します。

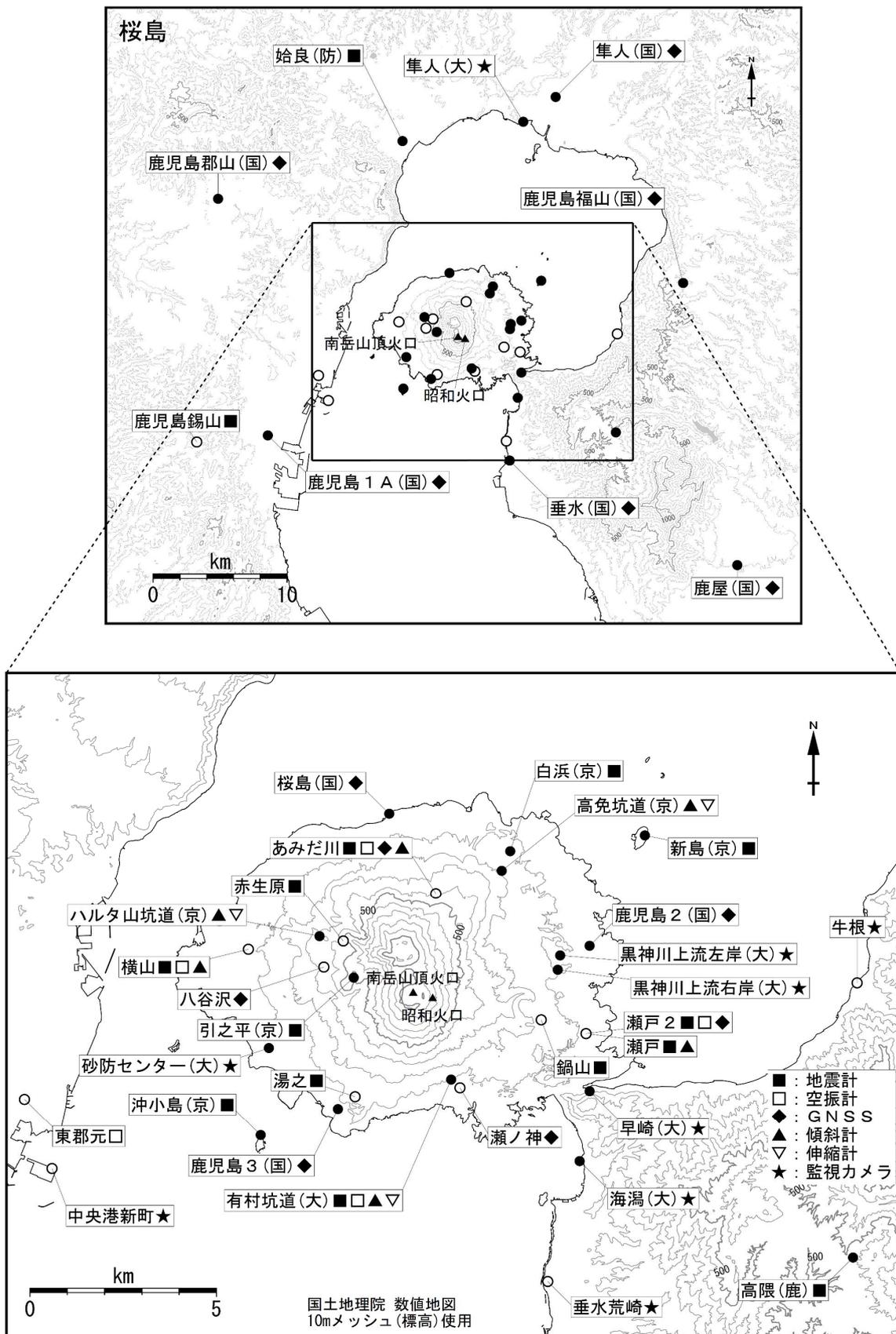


図 16 桜島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(大)：大隅河川国道事務所、(京)：京都大学  
 (鹿)：鹿児島大学、(防)：防災科学技術研究所

表4 桜島 気象庁（火山）観測点一覧（緯度・経度は世界測地系）

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始 年月	備 考
		緯度 (° ' )	経度 (° ' )	標高 (m)			
地震計	横山	31° 35.46'	130° 36.72'	41	-85	2010. 8. 2	
	赤生原	31° 35.58'	130° 38.33'	455	0	1963. 12. 1	
	湯之	31° 33.31'	130° 38.53'	119	0	1963. 12. 1	
	瀬戸	31° 34.23'	130° 42.45'	50	-98	2010. 8. 2	
	瀬戸2	31° 34.25'	130° 42.44'	62	0	2010. 8. 22	広帯域地震計
	あみだ川	31° 36.28'	130° 39.90'	400	-101	2010. 8. 2	
	鍋山	31° 34.43'	130° 41.69'	130	0	1981. 4. 1	
空振計	東郡元	31° 33.27'	130° 32.92'	4	39	1994. 2. 25	
	横山	31° 35.46'	130° 36.72'	41	1	2010. 8. 2	
	瀬戸2	31° 34.25'	130° 42.44'	62	1	2010. 8. 2	
	あみだ川	31° 36.28'	130° 39.90'	400	2	2010. 8. 2	
GNSS	瀬戸2	31° 34.25'	130° 42.44'	62	3	2001. 3. 21	
	八谷沢	31° 35.20'	130° 38.00'	300	3	2006. 7. 19	
	瀬ノ神	31° 33.44'	130° 40.31'	65	3	2006. 7. 1	
	あみだ川	31° 36.28'	130° 39.90'	400	3	2006. 7. 21	
傾斜計	横山	31° 35.46'	130° 36.72'	41	-85	2011. 4. 1	
	瀬戸	31° 34.23'	130° 42.45'	50	-98	2011. 4. 1	
	あみだ川	31° 36.28'	130° 39.90'	400	-101	2011. 4. 1	
監視カメラ	牛根	31° 34.97'	130° 47.05'	2	10	1994. 3. 1	
	垂水荒崎	31° 30.60'	130° 41.80'	52	1	2017. 1. 11	臨時観測点
	中央港新町	31° 32.25'	130° 33.39'	8	3	2022. 4. 7 2024. 6. 14	臨時観測点（熱映像） 可視映像